

もっとサステナブルな新潟へ。

だつたんそうしよう!

プロローグ・座談会

脱炭素って? 未来って、大丈夫?

地球温暖化や脱炭素って、気にはしていますが、どこか遠い世界の話のような気がしますが、でも、気候変動による農作物への影響や熱中症など健康への被害、大雨などの災害があちこちでニュースになっています。新潟日報は県と共催し来年3月まで、脱炭素につながる情報を発信する「未来のチカラにいがた脱炭素プロジェクト」を実施します。毎月の紙面特集初回は、温暖化対策で本県の先頭に立つ花角英世知事と、環境活動などに取り組む県内の中学生代表4人が、地球温暖化や脱炭素について話し合いました。

新潟県 花角英世知事 × 新潟明訓中学校 村上市荒川中学校のみなさん



新潟明訓中学校 生徒会長 井上 結斗さん(右) 生徒会副会長 向日里さん(左) 学校での取り組み 新潟明訓中学校(新潟市江南区)では「総合」の時間にSDGsを学習。古紙回収して作ったトレイトペーパーをマリニピア日本海に寄贈するなどし、SDGsや脱炭素につながる取り組みを全校で進めています。

地球温暖化って心配だなあ!



志村さん 花角知事、最近、地球温暖化やカーボンゼロについてのニュースを見たり聞いたりしています。地球温暖化や新潟県で起こっていることについて教えてください。

花角知事 地球温暖化とは、私たちが生活の中で必要なモノを作ったり、消費したりする中で、大気中に二酸化炭素などの温室効果ガスが排出され、地球全体の平均気温が上昇していることを言います。このままでは、猛暑日や大雨が増えたりして、より深刻な自然災害が増えたりと予測されているんです。昨年は村上市など下越地方を中心とした記録的な大雨がありました。新潟県でも熱中症など健康への被害や、気温の上昇による農作物への影響がみられています。県としても非常に心配な問題だと考えています。

家族や友達にも知ってほしいな



加藤さん 具体的にはどんな取り組みをしているのですか。

花角知事 温室効果ガスの排出を減らすには、生活の中で少し行動を変えただけでできることが色々あります。例えば、日本全体の温室効果ガスの排出量の約6割が、衣食住を中心とする私たちの日常生活から出ています。つまり、節電や物を大事に長く使う、残さず食べるなどの果ガスを減らすことが、できるんです。新潟県では一人一人が生活の中でできる30の取り組みを「にいがたゼロチャレ30」として紹介し、実践を呼び掛けているんです。

未来のチカラ



「にいがたゼロチャレ30」って、なに? 未来のチカラにいがた脱炭素プロジェクトの取り組みを「にいがたゼロチャレ30」として紹介し、実践を呼び掛けているんです。



井上さん 新潟県が全国1位なんです。すごいですね。

花角知事 石油や天然ガスが採れるため、新潟県にはエネルギー関連企業が集まっています。さらに、天然ガスを東京など首都圏に送るパイプラインなどの設備も整備されています。新潟県や、東日本、北日本、南日本の液化天然ガスの日本海側の拠点です。また、自然豊かで水力発電も多く行われています。海の上での風力発電ができる可能性も持っています。このような施設や環境を活かすことで、新しい産業が生まれ、環境に優しいエネルギーの拠点になれる可能性があります。新潟県は持っているんです。

みんなができることを!



志村さん ぜひ私たちもできることがあれば積極的に協力していきたいです。

花角知事 大変心強いですが、脱炭素社会の実現には、県民みんなで取り組みを進めていくことが大切です。ぜひ皆さんの視点で脱炭素について考え、行動につなげてくださいます。みなさんの魅力あふれる新潟を作っていきますよ!

村上市立荒川中学校 生徒会長 志村 環琉さん(左) 生徒会副会長 渡邊 真央さん(右) 学校での取り組み 荒川中学校では3学年を通じて脱炭素につながるSDGsについて学んでいます。2年前には「あらかわ地区まちづくり協議会」と一緒に地元食材を使った商品開発と販売を行い、新潟SDGsワード大賞に輝きました。

オール新潟で脱炭素を進めよう!



新潟が発展するチャンスかも! 新潟県では脱炭素社会の実現に向け、豊かな自然環境を活かした風水力・太陽光・バイオマスなど再生可能エネルギーの「創出」、家庭や事業所などでの再生可能エネルギー「活用」と省エネ・省資源による温室効果ガス「削減」、森林資源などによるCO2の「吸収・貯留」を柱とする温室効果ガス削減対策を進めています。



暮らしの中でチャレンジ!「にいがたゼロチャレ30」 温室効果ガスの排出を少しでも抑え、将来の世代に新潟の豊かな自然や環境を引き継いでいくため、新潟県は私たち一人ひとりができる30の取り組みを「にいがたゼロチャレ30」として実践を呼び掛けている。にいがたゼロチャレ30

未来のチカラとは 未来のチカラとは2019年からスタートした新潟の未来を担うとともに考えるプロジェクトです。

だつたんそうしよう!

プロジェクトのキャンペーン名は「だつたんそうしよう!」。「脱炭素」と「そうしよう」を合わせ、「脱炭素を理解し、できることから実践しよう」との思いを込めました。みんなでサステナブルな新潟を目指しましょう。

▶▶ イベント 産学官や若い世代をつなぐ

産学官が連携して課題解決などを考える「脱炭素フォーラム」、将来を担う中学生が地元企業や自治体の取り組みを学び、発表する「中学生円卓会議」を開催します。県内約240の企業・団体が加盟する一般社団法人「SDGsにいがた」では連続セミナーも企画。詳しくは紙面や専用サイトなどで告知していきます。

▶▶ 専用サイト 新潟の情報を発信!

専用サイト「だつたんそうしよう!」では、県内企業や自治体、教育機関などの脱炭素に関する情報を集めて発信していきます。プロジェクトの協賛企業も紹介していきます。

主催/新潟日報社 共催/新潟県 | 次回は7月30日付を予定しています | このプロジェクトへの問合せは 新潟日報社統合推進センター 電話025(385)7473(平日午前10時~午後5時) 企画・制作 新潟日報社統合営業本部

私たちは未来のチカラにいがた脱炭素プロジェクトを応援しています。

(順不同)

Asahi Alex group 朝日酒造株式会社 IN イコンハウス新潟 INPEX 株式会社 榎木組 AGV INET 55 oga+ 株式会社 加賀田組 株式会社 興和 サウンドエイト SAKATA 三泰印刷株式会社 JX JX石油開発 JT 清水建設 住まいるあわせを、ともにつくる。 株式会社 新宣 日興+BSN 住まいの専門店 株式会社 ナンバ UX 新潟テレビ21 新潟トヨペット 日本曹達株式会社 BSN新潟放送 VIP GROUP 株式会社 福田組 ブルボン 北陸ガス 製本間組 マルソー株式会社 ミタカ 三井ホーム 三菱ガス化学 公益社団法人にいがた緑の百年物語緑化推進委員会 ヤマナリ猪又産業 RICOH imagine. change. 緑水工業株式会社

新潟市 三条市 新発田市 十日町市 村上市 燕市 胎内市 関川村